

市民が望む総合的病院の実現に関する陳情

逗子市議会議員 高野 毅殿

市民が待ち望んでいた総合的病院の実現に向け「医療法人社団葵会」が公募により選出され、多くの市民は、これで逗子市に医療施設が整い安心して暮らせると思っているのではないかと思います。

しかし、最近の総合病院の進捗状況を「ずし市議会だより」や、逗子市ホームページの「総合的病院の誘致」、「総合的病院特別委員会」等を読む度に、公募当時の基本的な考えかたと違う方向に進んでいるのではないかと懸念しております。

2016年9月、市が発表した誘致の基本的な考え方とは、

1. 救急医療の充実。
2. 安心して出産、子育てできる環境のために、小児科や産科の充実。
3. 在宅医療の後方支援や回復期の入院機能確保
4. 病床数200床以上の確保

でありました。しかし現在の計画は、

▼365日24時間救急の実現が遠のき、要望の多い小児救急は目途が立ちません。

▼産科も市内に産婦人科2病院があるため、産科とその高度医療を断念しています。

人口減少社会において「人口を維持する」と謳う逗子市において、以上2つの機能を死守しなくてよいのでしょうか。改めて「市民が真に望む機能の確認」が必要ではないでしょうか。

▼葵会が当初目標としていた緩和ケア病床30床が見当たりません。

今後2人に1人は癌になるといわれる時代。逗子市は一層の高齢化が進み一人暮らしや老々介護が増える中、在宅による終末医療では困難な人も増大します。市と葵会は地域包括ケア病床でこれに対応するようですが、その内容や体制は定かではありません。

▼建築について、公募時の形状が著しく変更されたのは2017年5月。そしてその案も現在、階数(5階→4階)や面積(20,000㎡→16,200㎡)など、建築のローコスト化により著しく規模が縮小されています。

以上の通り現在の計画は、病院機能や規模の縮小など「医療の必要な市民にとって不利益な変更が繰り返されてきた」と言わざるを得ません。

また、病床数に係る経営についても懸念があります。

▼そもそも田浦にあった旧北部共済は303床で経営が行き詰りました。同病院は、旧海軍病院としての歴史と国道16号線沿いという好立地、急性期と慢性期医療を展開し、整形外科始め幾人もの名医がおられた経緯の中、なぜ閉鎖に陥ったのか、詳しい検証を行ったのでしょうか。

広大な市有地を無償貸与で誘致する以上、市は病院機能から経営に至り、しっかりとした研究と主張をもって、葵会との協議に臨んでもらいたいものです。

つきましては貴議会により、議会報や議会報告会等をもって、これまでの変更点や懸念点、市民要望等を明らかにして頂き、逗子はもとより三浦半島全体にとって真に必要な病院の姿を改めて検証するよう、市と葵会に求めて頂きたくお願い申し上げます。

2018年5月30日

逗子市小坪3-5-5 小笠原 素子

